

地域力向上にむけて

～アクションプランをつくりましょう～

み ん な の 手 と 手 で



平成22年3月

瀬戸市

はじめに...

本市では、第5次瀬戸市総合計画の目指す「自立し、助けあって、市民が力を発揮している社会」の実現を目指し、市民一人ひとりが身近な地域課題を共有し、力を合わせてその課題解決に取り組んでいくための指針として『地域力向上プラン』を策定しました。

本冊子では、プランに基づき地域力向上活動を進めるにあたり、基本的な流れや手法、注意点などを紹介・解説しています。

目次

地域力向上アクションプランとは	1 ページ
①地域住民の声をつかみましよう！	2 ページ
②どんなまちにしたいか考えよう！	4 ページ
③みんなで話し合おう！	5 ページ
④地域力向上アクションプランを策定しましよう！	7 ページ
⑤みんなで手をつなぎましよう！	8 ページ
⑥さあ、活動の始まりです！！	10 ページ
⑦行政の支援について	11 ページ
⑧活動に役立つホームページ	13 ページ

地域力向上アクションプランとは…

地域の皆さんが発見した地域の課題や問題を解決するため、短期・中期・長期の目標を設定し、どのような活動を行って課題解決を図るかを表した計画のことです。

地域力向上アクションプランを策定するためには

地域力向上に取り組むうえで、大切なことをまとめました。

『住民アンケート』・・・地域住民の声をつかみましよう！



『ワークショップの開催』・・・みんなで話し合おう！



『地域力向上アクションプランの完成！』



『団体間の連携』・・・みんなで手をつなぎましよう！



『行政の支援の活用』・・・行政と連携ましよう！



① 地域住民の声をつかみましょう！

～理想の地域像を探るために～

地域づくりの基礎となるのは、「地域の現状把握」です。地域の現状を把握することは、『地域の課題を知る』ことにもつながります。現状を把握・分析するための住民アンケートの方法をまとめました。

「声」をどのようにしてつかむか？

住民アンケートの実施方法

アンケート調査は、幅広く住民の要望等を把握する代表的な方法といえます。また、要望だけでなく、これまで気づけなかった問題を知るきっかけにもなります。

アンケート調査はすべての住民に行うことが望ましいですが、難しい場合は世帯を対象として実施することも考えられます。

また、方法によっては住民に取り組んでいこうとしている活動を知っていただくためのPRの機会にもなります。

どんな「声」をどれくらいつかみたいのか？

ターゲットの検討

全住民（全世帯）に実施するのか、世代・性別等を限定して実施するのかによって、集まる「声」は異なってきます。どのような「声」を必要としているかを十分検討してターゲットを決めましょう。

質問の方法

皆さんも経験があると思いますが、質問の方法によっては、回答に困ることがあります。回答者が回答しやすい質問の仕方を検討しましょう。

わかりやすい言葉づかい

ターゲットを幅広く設定した場合は、難しい表現は避け、誰にでも「わかりやすい」「参加しやすい」言葉づかいを用いましょう！

回収方法

せっかくアンケートを実施しても回収率が低くては、一部の「声」しか集まっていないことになります。地域は当然、一部の住民のものではありません。

より多くの「声」を集めるため、有効な手段を考えましょう！

個人情報の取扱い

アンケートの内容によっては、地域住民の個人情報を扱うことになります！多くの「声」を集めるために、個人情報を大切に扱うようにしましょう！

みんなの「声」をどのようにまとめるか？

集計の方法

集まった意見を単に数値やパーセントでまとめるのでは、具体的なイメージにつながりません。世代別、性別などで集計し、数値から地域の特徴を見つけ出す必要があります。

みんなの「声」をどう活かすか？

結果から何が見えてくるのか。何が求められているのか。

集計した結果を十分に分析してみましょう。アンケート結果は「理想の地域」へ導いてくれる「宝の地図」です。

分析する際は、多くの人と感想や意見交換をすると、より客観的な分析につながります。

現在の地域と将来の地域について考えよう。

アンケート結果から「現在の地域」と「理想の地域」との「差」が見えてきます。この「差」に気付くことこそが、地域づくりのスタートです！



アンケート案の作成や集計の際は、行政が支援します。

② どんなまちにしたいか考えよう！

アンケートなどにより、地域の現状や課題が見つかったのではないのでしょうか。一方で、改めて地域の「素晴らしさ」も再発見できたのではないのでしょうか。

「こんなまちになったらいいな」「あんなまちにしたいな」など、皆さんの目標を立てましょう！！

ポイントは「**楽しみながら取り組める**」ものにすることです。設定のポイントを以下にまとめてみました。

目標は具体的かつ簡潔に整理しましょう

まずは実現可能な目的を見つけましょう。

あまりに実現困難な目標を立ててしまうと、活動が行きづまるだけでなく、継続が難しくなります。まずは「楽しんで」取り組めるような目標を見つけましょう。

誰にでもわかりやすく、イメージしやすいものにしましょう。

目標を見つけたら、基本方針を整理しましょう。

(例)

★目標★

「高齢者が元気なまち」

☆基本方針☆

- ・一人暮らし老人宅への訪問活動
- ・高齢者が集える場づくりやイベントの開催
- ・高齢者と子どもがふれあう機会の創出

目標の達成時期を決めましょう

いつまでに達成するか大まかなスケジュールを決めましょう。

短期・中期・長期に分けてスケジュールを整理しましょう。

一つずつ取り組みましょう

目標は欲張らない

地域の課題は一つだけではありませんが、それらを一度に解決しようとする、活動に負担がかかりすぎてしまいます。

まずは小さなことでもできることからやっていくことで、課題の解決への扉が開き、活動の輪も広がっていくでしょう。

こうした活動の成功体験を次の活動へつなげていきましょう！

③ みんなで話し合おう！

アンケート結果や目標をふまえ、今後の活動方針を決めましょう！
みんなで話し合うことは、新しいアイデアの発見につながります。
有意義な話し合いをすすめるためのポイントを以下にまとめました。

会議はグループ討議（ワークショップ形式）で行いましょう！

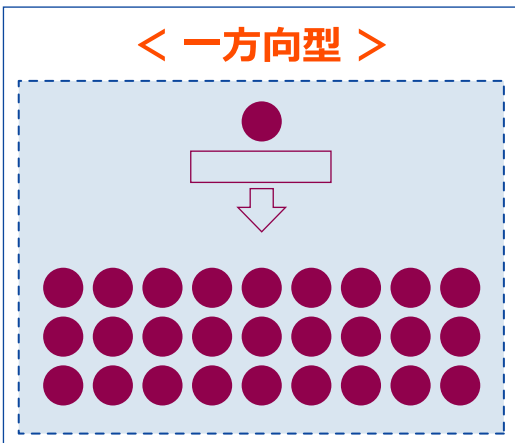
<会議を始める前の注意点>

家事や仕事の後、せっかく集まった会議が、雑談や報告だけで終わってしまっただけでは、参加することが「負担」に感じてしまいます。できるだけ全員が意見を出し、その意見を尊重した活発な議論ができるような会議にしましょう。

■ワークショップ■

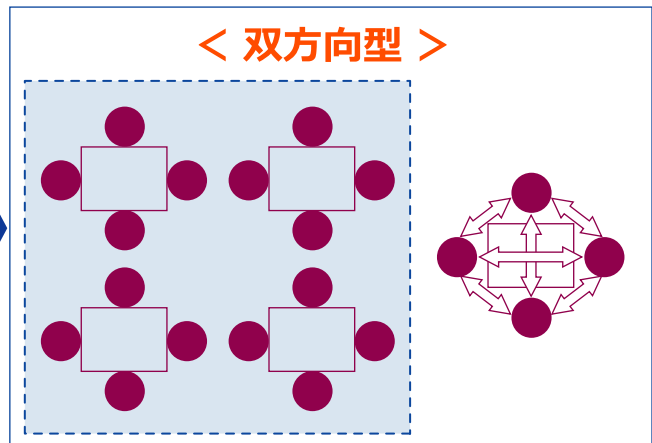
参加者全員が平等な関係で、共同作業を通して意見やアイデアを出し合い、できる限り多くの意見をまとめ、目標や解決策について一定の合意を得て共有していく創造的な会議です。

●従来の会議



発言力のある人や地位がある人の意見が目立ち、自由な議論がされにくい。意見を否定し合うこともある。

●ワークショップ



参加者がグループに分かれ、^(注1)ファシリテーターの進行により自由に意見を出し合い、お互いの意見を尊重し合いながら合意形成していく。



(注1) ファシリテーターとは…

グループの力が最大限になるよう、メンバーの意見、経験、能力、感性、やる気を引き出す進行役です。

客観的・中立的な立場で、議論を引っ張るのではなく、参加者のコミュニケーションを促し、目的とする成果に導く役割を担う存在です。

☆ワークショップの約束ごと☆

1

楽しい雰囲気づくりを心がけましょう！

参加者は、「はじめまして！」の方もいます。お互いを知り合い、楽しく明るい雰囲気で話し合いができるように心がけましょう！



2

自由に語り合しましょう！

ワークショップは、自由に語り合う場です。意見に「正解」も「間違い」もありません。他のメンバーの意見を否定することなく、どしどし語り合しましょう！



3

お互いを認め合しましょう！

経験も知識もさまざまな参加者で開催します。当然、いろいろな意見が出てきます。お互いの意見を認め合い、よりよい方向を探りましょう！



4

折り合うことも大切です！

多くの意見をまとめるためには、譲り合い、折り合うことも必要です。ともに共感し、活動できることを見つけ出しましょう！



5

協力し合ってまとめましょう！

協力し合って、グループのテーマに沿った目標なども設定し、出された意見をまとめましょう！



●ワークショップの必需品

◆名札…メンバーを知りましょう。

◆ふせん紙…アイデアや意見を記入します。

◆模造紙…ふせん紙を貼りつけたり、議論の結果をまとめます。

◆カラーペン…内容をわかりやすく表現するときに有効です。